四万十町
町内ぶら〜り散策

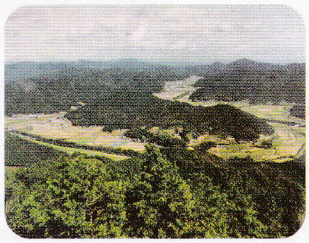
富（とみ）岡（おか）

「道」の駅あぐり窪川」の向かい側にあるガソリンスタンド脇を東に入る。そこから1kmほど行ったところから、山沿いをさらに進んだところにある仁井田川に架かる橋あたりまでが富岡である。右折してこの橋を渡ると向川。真っすぐ行けば中ノ越である。中ノ越の巻で記したが、国道が整備されるまではこの道が主要街道であった。現在この道の南側は田畑になっているが、戦後しばらくするまでは、この田畑も山林であった。

さて、富岡は不思議な地区である。過去に一度消滅しているのである。江戸時代、野中兼山によって大規模な灌漑（かんがい）工事が行われたが、この地区はその対象に入らなかった。というよりも、当時は隣接する平串村（元禄の頃までは平串村は川井村といった）の一部であり、右記のとおり山林地帯であったこの富岡地区には農地がほとんどなかったと言って良い。幕末近くになって、富岡は平串村から分村して富岡村となるのであるが、農地が整備されていないままの山間の小さな集落では生活は困窮を極めたという。生活苦から次第に村を離れる人が続き、とうとう住民がいなくなってしまったのである。しかし、住民がゼロになったとはいえ、田畑もあれば、地区には祀（まつ）られていた氏神様もある。それらは平串村の住民たちが代わりに管理してくれていたという。

やがて時代は進み、戦後の混乱期に入る。政府と県は戦後の食糧難を補うためこの富岡に着目。ここを政府が田畑として開拓し、満州やシベリアから帰国して職を求める人々に払い下げたのである。敗戦と同時に命からがら引き上げて来た彼らはこの地で懸命に耕作した。しかし、混乱期とはいえ当時の政策はかなりおおざっぱなもので、開墾間もない圃場（ほじょう）は地力もなく、それに加えて、当時はまだ十分な農業用水を確保できず、彼らの農業経営は大変厳しいものであった。やがて、農業以外で生計を立てていく人が増え、また、農業での可能性を求める人は、ブラジルなどの海外へ渡っていった。

現在は、農業用水も整備され、17世帯35人がおだやかな暮らしをおくっているのだが、高知道延伸のコースになっていることで、便利になることと生活環境の変化との狭間で住民たちの頭を悩ませているということである。



地区の方が保存されていた写真。平串・富岡・中ノ越の位置関係がよくわかる。

町のうごき

（1月31日）	人口	前月比
男	8,380	−34
女	9,387	−25
計	17,767	−59
世帯数	8,605	−25

	出生	死亡	転入	転出
男	3	26	7	18
女	2	14	9	22
計	5	40	16	40

（1月中の届出）

窪川地域 12,459人　大正地域 2,546人　十和地域 2,762人

四万十川の水質状況

	適正値(mg/l)	2月6日
リン酸	≦ 1.0	測定範囲以下
硝　酸	≦ 0.5	0.306
アンモニウム	≦ 5.0	測定範囲以下
アニオン活性剤	≦ 1.0	0.35
化学的酸素要求量	≦10.0	測定範囲以下

調査：大正（吾川）
資料：四万十高校自然環境部

四万十町通信　2017.3月号　Vol.132（毎月10日発行）
●発行／四万十町企画課　●印刷／窪川印刷
〒786-8501　高知県高岡郡四万十町琴平町16-17　☎（0880）22-3124